

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4076000118		
法人名	嘉穂ホームケアサービス有限会社		
事業所名	グループホーム ほたるの里		
所在地	福岡県嘉麻市桑野2639番地の1 (電話) 0948-57-3111		
評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年5月26日	評価確定日	平成19年7月5日

【情報提供票より】 (平成19年4月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	16 人
職員数	18 人	常勤 17人, 非常勤 1人, 常勤換算 3.7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,200 円	その他の経費(月額)	13,200 円	
敷金	有(円) ㊦			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) ㊦	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		840 円	

(4) 利用者の概要 (平成19年4月10日現在)

利用者人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名
要介護1	3	要介護2	6		
要介護3	4	要介護4	3		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 85.25 歳	最低	71 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	嘉麻赤十字病院、吉原医院、鎌田病院、あとの歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

遠賀川の源流である山々に囲まれた自然豊かな田園地帯に位置した事業所は、川のせせらぎと鳥のさえずりが聴こえてくる環境にある。事業所は代表者の家族介護を機に建てられたものであり、広めにつくられた各居室にはトイレ・洗面所・ベランダ等を設置し、また車椅子使用でも過ごしやすいように設計している。職員はホームの理念でもある「家庭的な雰囲気の中でゆったりとした」介護に心がけており、利用者とのコミュニケーションを大切にしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回外部評価の主な改善課題の取組みとして、全職員で話し合い、非常口の設置や介護計画の様式の見直しに取り組んでいる。しかし、検討した経過記録がないので、今後は記録を残してほしい。</p> <p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価については、全職員で協議等を行わずに取り組んでいる。共通認識をもって取り組んでほしい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を開催していない。早急に開催するように検討してほしい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>玄関入口に苦情箱を設置している。また、家族の訪問時等に、家族の意見や要望を聴き取るようにしている。家族からの要望等については、外食の機会を増やす等、運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣小学校の職場体験や訪問を受け入れ、町内会の行事を見学する等、地元の人々と交流することに努めている。</p>

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の運営理念とは別に事業所独自の運営理念はあるが、開設当初からの理念である。	○	全職員で協議等を行い、地域密着型サービスの視点を加えた事業所独自の理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、全職員で理念を唱和し、理念の持つ意義について話し合いながら、日常のケアに反映できるよう取り組んでいる。	○	地域密着型サービスの視点を加えた事業所独自の理念をつくりあげて、それを全職員で共有し、理念の実践に向けて、日々取り組んでほしい。
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣小学校の職場体験や訪問を受け入れ、町内会の行事を見学する等、地元の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の結果について全職員で話し合い、非常口の設置や介護計画の様式を見直しに取り組んでいる。しかし、今回の自己評価については、全職員で協議等を行わずに取り組んでいる。	○	前回評価の結果について職員で話し合った内容、改善に向けたその方策等、会議録として記録に残しておいてほしい。また自己評価については、全職員で協議等を行い、共通認識をもって取り組んでほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催していない。	○	早急に運営推進会議の開催をしてほしい。委員の選出が困難な場合には、行政や地域包括支援センターに相談する等して、地域性に即したメンバーを委員として選出する等工夫を行い、実施してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事務手続き上等での連携以外は、事業所は行政に対して積極的に関わっていない。	○	事業所の質の向上のため積極的に働きかけてほしい。まずは運営推進会議の開催のために、行政担当者と話し合ってもらいたい。
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度について外部研修を受講している。研修を受けた職員は、内部研修で他の職員へ伝達している。	○	制度等の理解については、継続的な研修の機会を持ってほしい。また内部の伝達研修について、日時、出席者名、内容等を記したものを記録に残すようにしてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2～3ヶ月に1回、便りを発行し、利用者の写真を同封して、家族へ郵送している。また、健康状態や日頃の様子については、定期的に電話連絡で家族へ報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口に苦情箱を設置している。また、家族の訪問時等に、家族の意見や要望を聴き取るようにしている。家族からの要望等については、外食の機会を増やす等、運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	代表者は職員の悩みや問題を聴き取る機会を随時持つ等して、異動や離職を必要最小限に抑える努力をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権に関する外部研修を受講した職員は、他の職員へ伝達研修を行い、その内容を伝えている。しかし、内部伝達研修の記録はない。</p>	○	<p>内部の伝達研修について、日時、出席者名、内容等を記したものを記録に残すようにしてほしい。</p>
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は、年間を通して職員が偏ることなく研修を受ける機会を設けている。また職員のスキルに応じ、職員の希望する研修を受講できるよう配慮している。研修を受講した職員は他の職員へ内部伝達研修を行っている。しかし、研修に関する報告書等の記録がない。</p>	○	<p>外部・内部研修に関して、日時、出席者名、内容等を記したものを記録に残すようにしてほしい。</p>
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会の地区ブロック研修会に参加しており、ブロック内で各事業所が輪番制でテーマに沿った研修を開催している。研修を通して他事業所との交流を深めている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族・本人と面接や体験入居を行い、本人が場の雰囲気馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は日常生活の場面で、歌や裁縫、山菜獲りなど、利用者から様々な事を学びながら、共に支えあう関係を築いている。</p>		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の希望の把握に努め、それに沿って支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>管理者・担当職員は、家族の意見等を電話連絡時や訪問時に聴き、また職員のミニカンファレンスの際に職員からの意見を聴き、それぞれを反映した介護計画を作成している。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月～6ヶ月後に介護計画の見直しを行い、その他現状に即した介護計画となるよう、利用者の状況に応じて随時見直している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院の支援を行ったり、利用者が入院の際には病院へ出向き、家族及び医療機関と話し合いを行う等し、早期退院に向けた支援を行っている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族・本人の希望のかかりつけ医での受診を支援している。また、事業所の協力医療機関での定期的な受診が出来るよう支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状況に応じ、家族並びに医療機関と話し合い、方針を決めている。またその方針を全員で共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけは、穏やかでプライバシーに配慮している。個人情報についての研修に参加した職員は、他の全職員に伝達研修を行い、その内容を伝えている。しかし、内部伝達研修の記録はない。	○	内部の伝達研修についても、日時、出席者名、内容を記したものを記録に残すようにしてほしい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールはあるが、一人ひとりのペースや希望にそって支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、一緒に準備や片付けをしている。また、職員は利用者と同じ食事を摂り、楽しみながら食事の時間を過ごしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>利用者の希望に応じて、回数や時間帯等、柔軟に入浴支援を行っている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者一人ひとりの生活歴等を活かし、洗濯物干し、配膳手伝い、草花への水やり等、役割や楽しみごとを支援している。</p>		
28	63	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>月1～2回、季節に合わせた花見見学を行ったり、週2～3回、天気がよければ散歩をする等、日常的に戸外へ出かけられよう支援している。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員は施錠することの弊害を理解しており、日中玄関等は施錠していない。</p>		
30	73	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防計画があり、年2回防災訓練を実施し、職員は避難経路や避難場所については周知している。</p>	○	<p>今後はいざという時のために、事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加協力を得ながら避難訓練等を実施してほしい。</p>

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>近隣の医療機関の栄養士から献立について助言を受け、食事摂取量のチェックを行っている。また、必要に応じて水分量のチェックを行っている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の作品を展示する等、家庭的雰囲気配慮している。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室には、利用者の使い慣れた物品や調度品を持ち込み、壁には家族の写真が飾られ、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		

※ は、重点項目。